

## 防災教育について

### 1 本県における防災教育の推進

三重県教育委員会では、東日本大震災の発生を受け、平成 23 年 12 月に「三重県の学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について〈指針〉」を策定しました。

指針では、学校の防災対策・防災教育の課題をハードとソフトに分類し、特にソフト面においては、次の 2 点を中心に取り組むこととしています。

- ・児童生徒が、防災意識と能力を高め、災害から身を守る力を身に付けるために家庭や地域と連携した防災教育の充実
- ・学校での専門的な防災の知識やスキルを有する教職員の育成

本指針に基づき、学校での実践的な防災教育のための教材の作成や学校での取組の支援、学校防災リーダーの養成などを進めるため、平成 24 年度に、学校防災・危機管理に関する事務を担当する「学校防災推進監」を設置し、児童生徒が、自分の命は自分で守る力を身に付けるとともに、発達段階に応じて、支援者となる視点から安全で安心な社会づくりに貢献できるよう、防災教育を推進してきました。

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では、避難所運営などに多くの課題がありました。豪雨や台風などの自然災害も頻発しています。また、震災後 7 年が経過しようとするなかで、危機意識の低下が懸念されており、防災教育に一層取り組む必要があります。

### 2 防災ノートを活用した防災学習

#### (1) 目的

ア 児童生徒が、地震、津波及び台風などの自然災害による危険や避難方法、家庭での防災対策を知り、自らの命を守るためにどうすればよいかを考え、行動する力を育成する

イ 児童生徒と保護者がともに家庭で防災ノートを活用して話し合うことなどを通じて、家庭の防災意識の向上と防災対策の充実を図る

#### (2) 配付と改訂

平成 24 年 2 月に、「防災ノート（初版）」（小学生低学年版、小学生高学年版、中高生版の 3 種類）を作成し、県内全ての児童生徒（公立及び私立学校）に配付しました。あわせて、外国語版についても 5 か国語（スペイン語、ポルトガル語、中国語、タガログ語、ビザイヤ語）を配付しました。

以降、毎年度新 1 年生と小学校 4 年生の児童生徒に配付するとともに、学校の要望も踏まえ改訂を行っています。

#### 【平成 26 年 6 月（第 3 版）の改訂内容】

- ・家庭で保護者と一緒に防災について考える時間を持てるよう、本冊とは別にワークシートを作成（全版共通）
- ・竜巻など突発的に発生する風水害の項目を追加（全版共通）

- ・ 防災ノートの回答例や指導上のポイント、到達目標表、過去の災害エピソードなどを収めた「指導者用防災ノート」を作成（全版共通）
- ・ 外出先での危険回避（小学生低学年版、小学生高学年版）、避難所での生活（全版共通）、災害ボランティア（中学生版、高校生版）に関する項目を追加
- ・ 小学生低学年版、小学生高学年版、中学生版、高校生版の4種類を作成

【平成28年6月（第4版）の改訂内容】

- ・ 熊本地震の状況を踏まえた対応を記載（中学生版、高校生版）
- ・ 学校が避難所になった場合に関する項目を追加（中学生版、高校生版）
- ・ 風水害対策として、「台風」や「突然起こる風水害である竜巻・急な大雨・雷」から身を守る行動に関する項目を追加（全版共通）
- ・ 発達段階に応じて必要な防災知識をとりまとめた「資料編」を作成（全版共通）
- ・ 能動的学習を促進するため「話し合ってみよう！」を追加（高校生版）
- ・ 家庭用防災学習コンテンツ等として作成した、ポータルサイト「学校防災みえ」へリンクするQRコードを印刷（全版共通）
- ・ ワークシートに家族で話し合った感想欄や家族の確認欄を追加（全版共通）

（3）防災ノートを活用した学習

ア 災害時の行動の実践的・具体的な学習

防災ノートは、学校の1単位時間の授業で使える発達段階に応じた系統的な教材となっており、特別活動や総合的な学習の時間に活用されています。

学習項目が、地震が発生した時の状況（在校中、下校時（外出時）、在宅時）に応じてどのように行動するか、また、台風、竜巻、雷が発生した場合にはどうするかなど、災害時に想定される様々な場面ごとに設定され、実際の被害状況写真やイラストも掲載されており、児童生徒は、危険からの回避方法、避難方法を実践的に学んでいます。また、防災ノートには避難所での生活、ボランティア活動などの項目もあり、災害時における自らの行動をより身近に具体的に考えられる工夫をしています。

（特別活動や総合的な学習の時間等に、防災学習の教材として活用）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
小中県立学校	79.0%	83.4%	83.9%	84.3% 514/610校
うち県立	51.2%	56.1%	67.1%	74.4% 61/82校

## イ 実践的な避難訓練

避難訓練時に防災ノートに、避難訓練前の意識と避難訓練後の振り返りを記入することで、児童生徒の取組姿勢が向上し、より実践的な訓練につながっています。

(避難訓練等の事前・事後の指導のために活用)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	72.1%	74.2%	82.8%	83.4% 509/610 校
うち県立	53.6%	54.9%	61.0%	65.9% 54/82 校

## ウ 家庭への啓発に活用

避難経路、備蓄品（非常持ち出し品）、家具の固定などに関するワークシートを持ち帰り、学校で学習したことを家庭でチェックするなどして、自分の生活と防災を結びつけて学習するとともに、家庭で保護者と一緒に防災について考える時間につながっています。

(児童生徒がワークシートを持ち帰った学校（平成 26 年度より調査）)

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	—	73.7%	82.8%	86.2% 526/610 校
うち県立	—	57.3%	74.4%	75.6% 62/82 校

## エ 教科学習の中での活用

「理科」、「社会科」、「家庭科」、「保健体育」などの教科で、「地震」、「風水害」などに関連した内容の授業時に、防災ノートをあわせて活用している学校もあります。

### 3 防災学習ポータルサイト「学校防災みえ」

家庭で子どもたちと保護者が防災について話し合うきっかけとなるよう、防災学習ポータルサイト「学校防災みえ」を教育委員会のホームページに平成 28 年度に開設しました。災害や復興に関する映像や被災者の体験談のほか、ゲーム感覚で楽しめる「防災クイズ」などを有しています。

また、防災ノートを活用して実践的な防災教育に取り組んでいる学校の授業を撮影・編集した教員向けの映像指導資料や各種ハザードマップ、「みえ防災・減災アーカイブ」など、防災教育の参考となるサイトへリンクしています。

学校防災みえ  
mie school disaster prevention

HOME ホーム

DATA BASE ハザードマップ

みえ防災・減災 アーカイブ

LINKS 防災関連サイト

地域との合同避難訓練（御浜町立阿田和小学校）

防災教育 実践事例

家庭用防災学習 サイト

防災クイズ

防災スゴロク

防災教材

教員専用資料

東日本大震災

その他の災害

全国の防災 コンテスト

#### 4 学校における体験型防災学習の支援

学校が実施する体験型防災学習、地域と連携した避難訓練等の取組が進むよう、みえ防災・減災センター、津地方気象台とも連携し、防災に関する知識・技術をもつ職員等を学校に派遣し支援しています。

- ・ 学校における防災タウンウォッチング、防災マップづくりの支援
- ・ 保護者、地域住民等との合同の避難訓練や防災学習の支援
- ・ 学校災害図上訓練：地震が発生した際の教職員の対応を机上で行う訓練の支援
- ・ 避難所運営ゲーム（HUG）：学校が避難所になった場合の対応を机上で行う訓練の支援
- ・ 防災啓発車（地震体験車）の派遣
- ・ 学校の防災に関する計画等への指導・助言 など

##### ア 体験型学習の実施状況（平成 27 年度より調査）

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	73.5%	75.7% 462/610 校
うち県立	51.2%	58.5% 48/82 校

##### イ 防災に関する訓練（避難訓練等）の内容別実施状況

（複数回答：平成 27 年度より調査）

###### ①地震避難訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	95.3%	95.4% 582/610 校
うち県立	98.8%	96.3% 79/82 校

###### ②火災避難訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	90.6%	89.8% 548/610 校
うち県立	92.7%	85.4% 70/82 校

###### ③津波避難訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	39.0%	39.2% 239/610 校
うち県立	22.0%	26.8% 22/82 校

###### ④風水害避難訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	7.0%	9.5% 58/610 校
うち県立	2.4%	4.9% 4/82 校

###### ⑤消火訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	43.1%	41.8% 255/610 校
うち県立	48.8%	40.2% 33/82 校

###### ⑥救命応急手当訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	69.6%	73.0% 445/610 校
うち県立	62.2%	56.1% 46/82 校

⑦引き渡し訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	39.5%	44.6% 272/610 校
うち県立	9.8%	11.0% 9/82 校

⑧避難所運営訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	7.5%	7.5% 46/610 校
うち県立	6.1%	4.9% 4/82 校

⑨図上訓練

	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	6.8%	8.5% 52/610 校
うち県立	7.3%	8.5% 7/82 校

ウ 「家庭」や「地域」と連携した取組をした学校

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
小中県立学校	64.9%	73.2%	80.8%	88.3%	90.3% 551/610 校
うち県立	52.4%	59.5%	93.9%	93.9%	97.6% 80/82 校

## 5 被災地に学ぶ ～ 宮城県との交流

### (1) 学校防災交流事業

宮城県の中学校との交流を通じ、東日本大震災を教訓に県内の中学生及び教職員の防災意識の向上を図ることを目的として、平成24年度から平成27年度まで、学校防災交流事業を実施しました。

平成24年度に開催した、中学生が主役の「子ども防災サミット in みえ」では、三重県と被災地である宮城県の子どもたちが、フェイス・ツー・フェイスで交流し、発表し合うことで、三重県の子どもたちは防災意識を高めるとともに、被災地の子どもたちの心に寄り添うことができました。

以後、平成25年度は、三重県の中学生が宮城県を訪問し、平成26、27年度は、宮城県の中学生を三重県に招き、交流を続けました。

### (2) 学校防災ボランティア事業

平成28年度からは「学校防災ボランティア事業」として、三重県の中高生が被災地（宮城県、福島県）に出向き、仮設住宅（災害公営住宅）を訪問しての被災者の方々との交流や、被災地の学校での防災合同学習などを行っています。東北での活動のあと、生徒たちは、在籍する学校や、県内で開催されたイベントで被災地に行き経験したことなどを発表しています。

また、生徒たちは防災士試験にチャレンジし、防災士の資格を取得（平成28年度は参加者36名のうち21名が取得、平成29年度は参加者35名のうち21名が取得。3月に7名が受験予定）したほか、熊本災害ボランティア活動（四日市東

日本大震災支援の会主催)に参加した生徒もあり、被災地での交流により、自分たちの防災能力を高めていこうという活動につながっています。

## 6 学校防災リーダーの設置と研修

すべての公立学校に学校防災リーダーを設置し、継続的に研修を実施しています。

### (1) 講義形式

有識者による防災教育の進め方の講義や学校での防災学習実践事例の紹介のほか、津地方気象台による最新の防災気象情報の活用法の講義など、防災教育・防災対策の基礎と応用について講義形式の研修を実施しています。

### (2) 実践形式

教職員自身が、防災タウンウォッチングやストローハウスなどの体験型防災学習を実践するための研修会を、みえ防災・減災センターと連携して実施しています。

平成 28 年 4 月の熊本地震での避難所における課題に対応するため、平成 28 年度、29 年度は、HUG（避難所運営ゲーム）を活用した研修を実施しています。

### (3) 宮城県の教職員を招へい

平成 25 年度から継続して、宮城県の教職員を講師として招へいし、災害時の対応やその後の学校での取組などについての講演会を実施しています。

## 7 経験年数別研修及び管理職研修

教職員を対象とした基本研修に防災の内容を盛り込んで実施しています。

### (1) 初任者研修

講義（巨大地震・大津波に備える～子どもたちのいのちを守るために～）

### (2) 教職 6 年次

講義・ワークショップ（防災学習の基礎 ～災害図上訓練 DIG～）

### (3) 教職 11 年次

講義・ワークショップ（防災教育～三重で子どもたちに何をどう教えるか～）

### (4) 新任教頭

講義・ワークショップ（災害時における教頭のリーダーシップ ～避難所運営訓練 HUG～）

### (5) 新任校長

講義・ワールドカフェワークショップ（災害時における校長のリーダーシップ）

## 8 学校防災に関する取組状況の把握と課題への対応要請

指針に示した課題に対する県内公立学校の取組状況について、毎年度、「学校防災取組状況調査」を実施し、継続的に把握しています。調査で明らかになった項目については、教育委員会の職員が防災対策部の職員と共に市町を訪問し、市町の防災担当部局及び教育委員会の職員と意見交換を行い、課題解決に向けた取組を要請しています。

## 9 学校における家庭・地域と連携した防災教育の取組例

### (1) 大紀町立錦小学校の取組



昭和東南海地震発生日の校務日誌 防災マップ作りの様子

錦小学校は、昭和19年12月の「昭和東南海地震」で大きな被害のあった大紀町錦に所在しています。学校では年間10回以上避難訓練を実施したり地域の防災訓練に参加するほか、津波避難所・避難路紹介DVDや津波避難所までの時間がわかる防災マップを作成するなどして、錦地区住民の防災意識向上に貢献しています。

### (2) 津市立栗真小学校の取組



タウンウォッチングの様子

防災フェスティバルの様子

栗真小学校では、地域の自主防災組織や自治会等の協力を得ながら防災タウンウォッチング、防災マップづくりを行いました。防災マップについては、紙の地図として作成した後、デジタル版に進化させ、校内の学習発表会で成果を発表するとともに、インターネット上にも公開しています。

また、地域の防災コーディネーターを招いての防災学習を行い、学習したことをみえ防災コーディネーター・津ブロックと共催で行った防災フェスティバルで、保護者や地域の方々に向けて発信しました。



### (3) 四日市市立西朝明中学校の取組



HUG体験の様子



土のう作り・積み体験の様子

西朝明中学校では、地域防災訓練を実施し様々な地域の方々に協力をいただきながら、中学生が地域住民として援助する側として何ができるか体験的に学んでいます。

#### ○学年別防災体験

1年生：防災マップ発表会、防災倉庫の確認・活用訓練、水消火器放水訓練、煙充滿室の移動体験

2年生：消火栓放水消火体験、土のう作り・積み体験、起震車での強地震体験

3年生：HUG体験（防災リーダー・老人会との合同グループ別）

○PTA 炊き出しによる非常食試食体験

### (4) 紀北町立紀北中学校の取組



パーティーづくりの様子



幼稚園児と一緒に避難所へ

紀北中学校では、学校が地域、保護者と連携することで地域とのつながりを深め、防災教育の中心となることを目的に防災教育に取り組んでいます。地域に開放した防災教室を開催し、避難場所でのパーティーづくりを地域の方といっしょに行ったり、定期的に行っている避難訓練では、幼稚園と合同で実施するなどしています。

#### (5) 四日市農芸高等学校の取組



地震体験の様子



炊飯袋での炊き出しの様子

河原田地区の避難所となっている四日市農芸高校では、地区住民が参加する防災訓練を継続して実施しており、生徒による地区の小学生、保育園児、高齢者の避難誘導や負傷者の救護活動の訓練などを行ってきました。平成 29 年度の訓練では、生徒が栽培し備蓄している昨年度産の米を使用し、3年生の生産技術コースと生活文化科が協力して、約 800 食分をハイゼックスという方法で炊き出す訓練を実施しました。

また、家庭科クラブでは、電気が止まった際に使用できる簡単ランプの作り方講習や包帯法講習を地域住民の方々を対象に実施しています。

#### (6) 南伊勢高等学校南勢校舎の取組



防災学習の様子①



防災学習の様子②

南伊勢高校南勢校舎では、学校が所在する南伊勢町と連携・協働して防災学習（10 時間/年）等を実施し、その成果として、デジタル防災マップの作成や、津波にかかわる地域の伝承を紙芝居にまとめ地元の小学校で読み聞かせをしました。また簡易トイレなど、被災時に必要となる物を詰めた、防災携帯グッズ「My ゼロパック」を考案し、自治会での普及に努めています。

また、防災士の資格をもつ3年生が、南勢中学校で開かれた「防災学習会」の講師を務め、中学 1～3 年生の 120 名に防災意識を伝えました。